

1年「福祉実習」の様子です。

令和4年7月14日

秦野曾屋高校では、福祉について理解を深めるために、1年生全員を対象に「福祉実習」を実施しています。生徒は7つの分科会に分かれて興味のある分野について学びました。



【手話】

2人の講師の先生から、手話を通じたコミュニケーションについて学びました。

【車いす実習】

本校の佐竹先生、近藤先生が指導しました。生徒は車いすの基本操作、段差上げ・自走の仕方・声のかけ方を学びました。



【補助犬】

生徒は4人の講師の先生から補助犬について学びました。実際に現場で活躍している補助犬も来校しました。

生徒の声

障害のある人を特別扱いするのではなく、平等に接することが大事であり、さらに支えていくことも大事になると分かりました。障害のある人がもっと世界で活躍できる時代が来たらいいなと思いました。

今までは看護師の仕事についてあまり詳しく分かっていなかったけれど、今回の実習で、看護師の仕事の内容を知り、とても大変だけどやりがいのある仕事だと感じた。

看護師の仕事は、患者さんを支えたりすることの他に、環境を整えたりすることも必要なので、看護師は様々なことに気を配りながら仕事をしなければいけないことに気づいた。

福祉・介護・医療にはそれぞれの役割があった。同じことでも見る視点や行うことが大きく違うことが印象に残った。実際にやってみても難しかったし、現場で働く人はもっと大変だと思った。

初めて自分で車いすを動かしたが、とても腕が疲れた。車いす生活をしている人はとても大変なんだろうなと思った。僕たちは高齢者や障害者を安心させることが大切だと感じた。福祉について学ぶ、体験するのはこれからの高齢社会に向けて必要だと改めて感じた。

たった一言で今後のその人との関係が断たれることもあると思うから、言葉をよく選んで話したり、ちゃんとコミュニケーションをとることは人と関わる上でとても大切だということが分かりました。

So good.
So cool,
Soya!

